

## 2022 年度実施概要

学校名

阪南市立西鳥取小学校

採択活動名

地域に根ざした海洋教育

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. アマモ苗移植	4	総合
2. アマモ花枝採取・生き物一斉調査	4	総合
3. 田植え体験	5	総合 社会
4. ビーチコーミング・石ころアート	1	生活
5. アマモ種子選別	4	総合
6. 海洋ごみ調査	4	総合 社会
7. 稲刈り	5	総合 社会
8. 漁港の座学 漁港見学	5	総合 社会
9. アマモ苗床づくり・播種	3	総合
10. 臨海学校、ウミホテル観察	5	総合
11. 聞き書き学習	6	総合 国語
12. ワカメ種糸付け	5	総合
13. ちりめんモンスター探し	2	生活
14. 海藻おしば教室	3	総合
15. 海苔すき体験	4	総合
16. 川・山を活かした海洋教育	4	総合
17. ワカメ収穫	5	総合
18. ワカメ調理実習	5	総合 家庭科
19. まちたんけん（海のこと）	2	生活
20. タコとのふれあい	1	生活
21. 実践報告会	6	国語 総合

取り組みの概要

「海洋教育科」の学習活動では、①海とふれあい、海を学ぶことで地域の環境に関心を持つとともに、地域の人と共に活動することを通じて地域で活動を行い、地域の一員としての自覚を育むこと、②地域の海や人々と関わることで、地域に対する愛着を深めるとともに自らの生き方や社会の担い手として成長するための経験にすることを目的とした。

## 【1・2年生】

「海に親しむ」ことを目標とし、近くに自然豊かな海があることを知り、海で楽しむきっかけとした。

「浜辺の生き物探し」(ビーチコーミング：7月)では、どんな生き物がいるのか観察を行ったり、浜辺に落ちている貝殻やシーグラスを拾って作品を作ったり、石を拾って石ころアートを作ったりした。また、「ちりめんモンスターを探せ」(2月)では児童が身近な食材から海の生き物に親しみ、海を身近に感じられる取り組みを行えた。2年生は自分たちが学んだこと周りの人に伝えるため、ちりめんモンスター新聞や図鑑を作成した。

今年度の新たな取り組みとして、1年生は「タコとのふれあい」を行った。普段食べることはあっても見たことのないタコを直にさわったり、間近で見たりして、海の生き物に興味を持つことができた。

### 【3年生】

「海を知る」ことを目標とし、海の楽しみ方や、海を育むことの大切さを学んだ。

「アマモ苗床づくり・アマモ播種」(11月)では、4年生から地域の海の環境を守るためのアマモの育成活動を受け継いだ。海にアマモの苗を植えに行った後、海岸に行って海の様子や生き物などを観察することで、この海でアマモが育っているということを実感できた。また、学校の水槽でもアマモを育て、海水の管理をしたり、アマモの成長記録をとったりするなどの活動を行った。「海藻おしば教室」(2月)では、いろいろな海藻を使ってそれぞれが絵葉書を作った。

### 【4年生】

「海を守る」ことを目標とし、理科や社会科と連携しながら、生き物のすみかの重要性や環境保全について学ぶとともに、海苔漉き体験を通じて漁業について考えるきっかけとした。

「アマモ苗移植」(5月)、「アマモ花枝採取・生き物一斉調査」(6月)では、地域の海に生息する生き物の観察を行ったり、自分たちが育てたアマモの種を採取したりした。今年度は自分たちの近くにある海のアマモ場に、多くの生き物がいることを知ってもらうため、魚やエビ、カニなどを捕って学校の玄関に水槽を設置して飼育した。

「種子選別」では、3年生のアマモの学習につながることを、自分たちの思いを3年生に伝えることを意識しながら取り組んだ。

「西鳥取の海洋ごみ調査」では、海岸にプラスチックごみが多いことに気づいたり、ザルを使って実際に砂の中のマイクロプラスチックを探したりする活動を行った。その後、プラスチックごみの影響について調べてまとめたことを、他の学年や保護者に発表した。

「海苔漉き体験」(2月)では、海の恩恵を感じ、次年度に学ぶ社会科の漁業について関心を高める取り組みとなった。

### 【5年生】

「海と漁業の関わりを知る」ことを目標とし、社会科の漁業や清掃工場の学習とリンクさせ、海の利用について学んだ。

「田植え」(6月)、「稲刈り」(10月)では、水の循環を通して、陸の栄養分が海の豊かさにつながっていることを学んだ。「漁港見学」(9月)、「漁業についての学習」(1~2学期)では、海を利用することが生活に根付いていることを理解し、「ワカメ種糸付け」(12月)、「ワカメ収穫」(2月)で実際に海産物の収穫を体験することができた。

ワカメ収穫の事前に「川・山を活かした海洋教育」の学習を行い、海の生き物の豊かさと川から流れてくる山の栄養が大きく関わっていることを学び、海中の栄養状態を意識しながらワカメの収穫をすることができた。そして、その後の「ワカメを使った調理実習」では、収穫したワカメとお米を使い、大阪ガスからゲストティーチャーを招いてご飯と味噌汁をつくる学習を行った。子どもたちは自分たちが収穫した食材ということもあり、自然の恵みを感じながら活動することができた。

「臨海学校」(9月)では、ウミホテルの観察の活動を新たに取り入れ、海の生き物の不思議さや多様性を学ぶことができた。

### 【6年生】

6年間の学習の集大成として、海の活動から、地域や社会について学びを深め「海を伝える」ことを目標とした。

地域の漁師からの「聞き書き」(12月)で、自分たちの身近にある海や漁業について学び、「実践報告会」(2月)にむけて、本校での海洋教育の取り組みを振り返り、今後自分たちがどう活動していくのかを考える機会とした。自分たちがまとめた西鳥取小学校の取り組みを他の学年にも発表し、自分たちの学んできたことを後輩たちに託す活動も行った。



1年「タコとのふれあい」



2年「チリメンモンスター探し」



3年「アマモ苗床づくり」



4年「アマモ花枝取り」



5年「ウミホタルの観察」



6年「漁師さんからの聞き書き学習」